

〔一〕
〔出典〕

内山節『新・幸福論 「近現代」の次に来るもの』「第五章 新しい胎動」の一節。途中にいくつか省略がある。

〔解答〕

問一 a 阻止 b 履行 c 鼓舞 問二 ニ 問三 仲間の世界
問四 共同 問五 ロ 問六 受け入れて 問七 保守主義の時代(7字)
問八 ハ(全体は「ニーイーハーロ」の順) 問九 ニ 問十 イ

〔二〕

〔出典〕

古文：『松浦宮物語』の一節。途中に文の省略がある。
漢文：『漢書』の一節。なお、同内容の文章が『史記』「孝文紀第十」にも収められている。

〔解答〕

問一 ハ 問二 ① イ ② イ ③ ハ ④ ハ ⑤ ハ
問三 政 問四 イ 問五 ホ 問六 ニ 問七 ロ 問八 ハ
問九 ホ
問十 (1) ニ (2) 是使三衆臣不敢尽_レ情 (3) ハ

〔講評〕

〔一〕が現代文の評論、〔二〕が古漢融合問題という形式は昨年度と同じ。〔二〕の漢文は、昨年度と同様散文が出題された。

〔一〕は比較的読みやすい文章であるが、設問はバラエティに富んでいる。中には、選択肢が紛らわしいものや設問自体がやや複雑なものなどがあつて少し解きにくい。また読解の際には、問五で問われている「人々」のように作者が独自の意味をこめて使っている語句に注意する。

問二は選択肢の見極めが難しい。傍線部の「ネットを道具として」と「顔を合わせる関係」の双方をきちんと説明しているものを選ぶ。問三、問四は単純な「言い換え問題」や「理由説明問題」ではない。設問が何をたずねているのかをきちんと把握すること。問十の「脱文整序問題」、問十一の「脱文挿入問題」は、早稲田の入試問題では頻出の問題形式。ただし、今回は答えの根拠が見つけやすい平易な問題である。

〔二〕の古文は、この文章からでは実質的に政治を行っているのが、「帝」なのか「母后」なのか、非常にわかりにくい。そのため、問二の主語判定の問題が難問になっている。問九の選択肢なども参照して考える必要がある。また、問五の文法問題も一部紛らわしい選択肢が含まれている。

〔二〕の漢文は、文章自体は早稲田の漢文の問題としては標準的なものだろう。設問もおおむね標準的だが、(一)の知識問題で「誹謗之木」の方は古文の文章も参照すれば、

どのようなものかだいたい把握できるはずだが、「進善之旌」の方はわかりにくい。